

共に学び 共に進む



竹台 通信



都立竹台高等学校 ☎03-3891-1515



R7.
3月号

卒業式（3学年）

令和6年度卒業式が3月1日（土）に本校体育館で行われました。

コロナ禍になってから入学した学年でしたが、卒業式では式歌を歌うことができました。退場の際、卒業生一人一人が担任の先生とハイタッチをして式場を後にしました。

新たな門出に晴れやかな笑顔を見ることができました。卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます！



卒業生答辞

梅のつぼみもほころび始め、寒さの中にも春の息吹が感じられる季節となりました。本日は、私達のために、このような素晴らしい卒業式を挙行してくださり、誠にありがとうございます。教職員の皆様を始め、ご多忙の中、ご出席いただきました、ご来賓の皆様、保護者の皆様には、卒業生を代表し、心から御礼申し上げます。

思い起こすと、三年間さまざまことがありました。三年前の春、真新しい制服に身を包み、希望と不安で胸をいっぱいにして臨んだ入学式。新型コロナウイルスの影響で、どのクラスメイトの顔にもマスクがあり、昼食は教室での黙食でした。こうした三年間が続くのかと、不安でいっぱいだったのを覚えています。ですが、幸いなことに、規模を縮小して体育祭、若竹祭を開催することができました。制限された中でも一人一人が真剣に取り組み、仲間との絆を深められたのは良い思い出です。

二年生になると、新型コロナウイルスの規制が緩和され、さまざまな学校行事に取り組めた一年間となりました。その中でも、一番の思い出は修学旅行です。私達の学年は新型コロナウイルスの影響により、中学校での修学旅行が中止になった人が多かったため、修学旅行はどの学校行事よりも待ち望んでいました。沢山の学びや初めての経験、きれいな景色を仲間と共有した北海道での四日間は一生の思い出になりました。

高校生活三度目の春を迎え、すべての行事が最後になってきました。中でも心に残っているのは若竹祭です。やっと、一般公開を実現することができました。クラスTシャツを着て仲間と作り上げた文化祭は、楽しい一時でした。準備がうまくいかず、仲間と衝突したこともありました。そんなことも全てが思い出です。最後の若竹祭は、学校全体が一つになった特別な時間で、忘れられない行事となりました。

長いようで短かった三年間で、私達は多くの「こと」を学び、経験しました。「目標に向かって仲間と協力すること」、「切磋琢磨しあうこと」、「ルールを守ること」、そして「みんなで笑いあったこと」。これらの教訓と思い出は、私達の糧になり、これからの歩む道をより豊かにしてくれると思います。

これからの竹台高校を担う、在校生の皆さんへ。

皆さんとは部活動や生徒会活動で時間を共有してきました。私達に先輩方が託してくれた教訓や伝統は、うまく伝えることができなかったかもしれません。しかし、皆さんがいてくれたから、少しでも立派な先輩になろうと努力できました。これから先、何度も大きな壁にぶつかると思います。そんな時には、仲間や先生方を頼り、乗り越えられるまで何度も挑戦してみてください。皆さんが活躍されることを心から応援しています。

また、今日までの三年間、私達の高校生活を支えてくださった教職員の皆様、今までありがとうございました。未熟な私達に勉強や部活動、進路指導で親身に向き合ってくくださったおかげで、今日卒業することができます。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

私達に日々寄り添い、見守ってくれた家族へ。

この三年間、困らせたり、心配かけたり、いつも迷惑ばかりかけていましたが、家族がいたからこそ頑張れたことが沢山あります。本当にありがとう。これからも沢山迷惑をかけるかもしれませんが、温かく見守ってください。

私達は本日、竹台高校を卒業し、新たな道へ歩み始めます。正直、ここで出会えた先生方や仲間との別れは寂しくもあります。しかし、三年間の思い出が消えることはありません。悩んだり苦しんだりした時には、竹台高校でのかけがえのない思い出を糧として、困難を乗り越えていきます。そしてこの春からは支えてくれる人々へ感謝の気持ちを忘れず、自分らしさを大切に、悔いのない人生を歩んでいきます。

結びに、三年間、私達を支えてくださったすべての皆様に厚く御礼申し上げますと共に、竹台高校の益々の発展を心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

令和七年三月一日 卒業生代表